

TBS 宛

2/19,CBC テレビから取材を受け、インタビューにも答えましたが、3/5 放送分を Yahoo ニュースで見る限り、取材趣旨とは異なるタイトル「救助犬が増えないのは “自己負担、!”と放送されたこと、同一視しては社会に誤解を与える「救助犬」の取り上げ方など、引き続き3/8 の JNN ニュースで放送されるようなので、同じ論調ならば放送は止めていただくように申し入れます。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/6ab6b75bcd6ef15d8bc0ccf1ac365e14b1b1bc61>

そもそも取材経緯として2/2、スイス発の記事

<https://www.swissinfo.ch/jpn/politics/%E6%95%91%E5%8A%A9%E7%8A%AC-%E5%85%88%E9%80%B2%E5%9B%BD-%E3%82%B9%E3%82%A4%E3%82%B9-%E5%9C%B0%E9%9C%87-%E6%97%A5%E6%9C%AC-%E7%81%BD%E5%AE%B3-%E3%83%AC%E3%82%B9%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%89%E3%83%83%E3%82%B0-%E6%B4%BB%E8%BA%8D-%E9%80%A3%E6%90%BA-%E3%83%AC%E3%83%89%E3%83%83%E3%82%B0-%E4%BA%BA%E9%81%93%E6%94%AF%E6%8F%B4-%E6%8F%B4%E5%8A%A9/45233674>

を見て取材をしたいと申し込みがあり、当会の受諾趣旨を伝え、ぜひ取材したいとのことから、資料提供と千葉県にて取材を受けましたが結果、当会の受諾意図とは乖離した内容になっています。そのことは取材時に確認していることです。

取材の「東日本大震災から10年を経て救助犬の現況は？」に対して、

当会の理念、願いは、正に登場している救助犬と比較して、善悪とかではなく、人命救助に対する活動視点、その区別することが第一歩であると考えています。

そのうえで初めて具体的な議論ができ方策も具現化してきます。

この目的、実態が異なる組織の混同が日本で正しく認知されず活躍しにくい環境でもあります。業界的には排除の論理と囁かれますが、区別することは当事者の責務であります。

その必要性をスイスインフォから指摘されている論点であり、それを感じて取材を受けたのです。ましてやお金で解決できるように思われるのは論外ですし、仮にお金があっても普及できても、愛犬家、訓練ビジネスでは喜ぶかもしれませんが、目的通りに人命救助に役立てることに結びつかないのは既に証明されています。

救助犬関係者では「人命救助」は共通のスローガンとなっていますが、ではその実現のために必要なことは何か。その目的に沿って実行するために何をすべきか、そして実行して問題点を見つけ出し、また見直し、そして行動する。そのサイクルで終わりのない訓練、活動を継続してこそスローガンを実現するために活動していると評価されるのでしょう。

世界では認定と称される冠があっても、出勤のための訓練や準備をしないハンドラーや人命救助に使わない、使えない救助犬は、「スポーツドッグ」を呼ばれ区別されている。

それが世界との差です。当事者である私たちは、国、自治体、マスコミなどに頼るより、理解される一般社会の人々とともに、行動を共にする現場救助隊との連携に力を注ぐべきとの方針が過去からの教訓(東日本大震災含む)に学んだことです。

編集者の感性により、国の無策、お金かのような思い込み編集は調査不足であります。

当会はインタビューにも補助金などは求めないと答えているはずですし、NPO 法人としてやるべきことを示し行っただけで一般社会の皆様の支援がなければ存在価値はないと思っています。何もせず先にお金ではないのです。順序が逆です。

映像にある、救助犬は人命救助のためではなく、別の事業として生活の糧、仕事として行っていることは当事者も述べていることですが、はっきりしないのはある意味利用するのが日本の歪みです。取材でも確認されているはずですが、これが日本独自の訓練ビジネスが存在して同じ名前で混同させる一つの要因でなっていることは事実です。情緒的な視点と人命救助の救助犬は区別しなければなりません。

訓練における育成と、その先の活動は区別すべきことができ始めて活動における議論が前に進むのです。それができるまでは国などに協力をもち掛けることはできません。

依って現況で「東日本大震災から 10 年を経てどのように変化したのか」という取材意図からは変化はなく後退しているように映りますが、しかし世界に追いつく救助犬活動できる素地ができたかと捉えています。それは活動している違いが分かりやすくなってきた点にあります。ここまで 30 年かかっています。

その違いを取材して、その点を読み取れなかったのは記者、編集の感性に負うところなのでしょう。編集で報道意図が大きく影響されるでしょう取材事実には反しては困ります。

当初から犬として取り上げている点と、当会は活動として取材を受けている点で、同時に放送できにくいとも感じていました。異なった視点または比較するためならいいのですが、過去にも取材ですでていると感じていましたが。今回は違うと思ったのですが残念です。

お金があれば救助犬が増える視点も間違っていますし、訓練をする人が増えて潤うのは訓練ビジネス関係者だけでしょう。増えたから活用されるわけではありません。現に公表されている頭数と過去の災害で現場に行ったのは数十頭でかけ離れています。

これは何故か、疑問を持って取材されたのだと思っていました。その疑問が自己負担が要因であるかのような捉え方は救助犬関係者を侮辱しているように感じます。

この点を捉えるには、400 頭いる冠救助犬、災害対応実績から見る動ける十数頭、災害現場で必ず出動する救助隊を調査すれば、疑問にぶつかり本質が見えてくると思います。

この頭数引用でもお金があれば解決できるような印象を与えることは大きな間違いです。

活用されない問題点はお金でもなく、国の無策だけではありません。ボランティア、NPO, 救助犬をひとまとめにすることは論点を誤ります。その先にある目的を見据えた活動に取り組んでいるかが大切な論点ではないのか。情緒的な番組ならドラマとして放送願いたい。

例えば、救助犬だけで人命救助はできないのです。救出する救助隊、救命するDMATなどが連携してこそ叶うものです。ならばそのための訓練をして備えるべきではないか。現行で欠けているものを補っていく取り組みこそ、いま平時に整えなければなりません。

その枠組みに救助犬は必要なのか、それはどのようなスキルを持った救助犬チームが必要なのか、掘り下げて行けばやることは見えてきます。やる気のある方々には日本の縦割りが弊害になっている点や前例主義、形式主義で実務的でない仕組みではアクシデントには対応できないのは災害の度に露呈しています。ボランティアでも人命救助に関してはプロでなければと思っています。以上の理念を事前に伝え取材を受けています。

こうした点を客観的に伝え、報道してほしかったとの思いです。当初の取材趣旨と結果が異なっている論調になっていることは看過できない点です。

お金は問題ではなく、正すべきは先ず己(当会も含め救助犬側)にあると感じています。

当会としては、「タイトル」「当会に切り替わる際には、一方活動を考える団体の場合・・・」などと同じようだが異なる点をはっきり伝えるようにしてもらえば幸いです。

同じようで決して同じではないのです。その違いに焦点を当てて、何れを選び支援をするのかは社会の評価次第です。演出ではなく事実、実態を伝えてもらいたいと強く願います。それが問題解決、活躍のバックアップになると考えています。

国、自治体がやるべきこと、また私たちがやるべきことをしっかり調べて指摘、報道してもらいたい。救助犬の提灯記事を求めているのではなく、まして金の問題を出すことは、当会にとっては本質的な論点ではなく、全く望んでいません。

当会としての指針は根拠をもって具体的に「群馬県モデル」に集約して示しています。

以上

CBC テレビ宛

3/5「チャント」内にて放送された NPO 法人 災害救助犬ネットワークです。番組自体は見れていませんが、下記の骨子「自己負担」が活動の弊害となっている趣旨で取材を受けたのではありませんし、取材においてもそのような話題はなかったはず。別の取材における内容とは区別してもらわなくては当会としての名誉にかかわります。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/6ab6b75bcd6ef15d8bc0ccf1ac365e14b1b1bc61>

事前チェックはなく、編集権もなく貴社に委ねている以上、第三者の客観的な目で事実を伝えていただくようお願いものです。

芸能ニュースではないのだから勝手なストーリーを描き、社会に間違った報道をされては困ります。事前に記者には説明しているし、国、自治体に縋って補助金を求めることはない、とはっきり答えているはず。

同じ放送内に、お金があれば増えると答えているのは、訓練ビジネスとしての視点からは当然で、使われない、使わない救助犬を増やして何をするつもりなのでしょう。

人命救助の大切さ、必要性を訴えるものではないのですか。

それが日本の救助犬を混同させ世界から揶揄されるのが実情です。

なぜ言われるか、なぜ違うのか、疑問を持ち、どれを取り上げるかは記者の感性に任せますが、「自己負担」が弊害であるかのような提灯記事が骨子であれば、取材も受けないし、社会に NPO 団体としての理念を疑われる。名誉の問題です。

そうした論点の整理、課題の提起をマスコミには期待しています。

<http://www.drd-network.or.jp/index.html> 「災害大国日本で救助犬が活躍できない不思議」

当会の HP にリンクさせてあるスイスインフォからのメッセージを見て取材を申し込んでこられたのですから、疑問をもっていると思い、実情を取材してもらいたいと資料提供もして取材を受けたのです。

自己負担があるから活動できないのは理由にならないし、お金が出るならやるというのならボランティアではなく仕事、事業になるでしょう。ボランティアへの道を開くのは金ではなく、意識、制度、仕組み、文化の課題克服にあると思っています。

それが世界との差であり、マスコミ、報道として日本的浪花節で人命救助を語ることはいい加減辞めてもらいたい。そんなマスコミの後押しは混乱を招くだけです。ジャーナリズムから救助犬による人命救助の枠組みが必要と考えるならば、過去のマスコミに取り上げられた救助犬らしき番組を追跡し、現況分析し教訓として掘り下げてもらいたいと願います。

3/5は既に放送済みですが、3/8のTBSでは取材趣旨に沿って編集をし直してもらうか、できないのならば当会を外してもらいたいと3/6に申し入れてあります。

以上